

平成 26 年（2014 年）の秋サケの資源状況について

平成 26 年 7 月 4 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場 さけます資源部

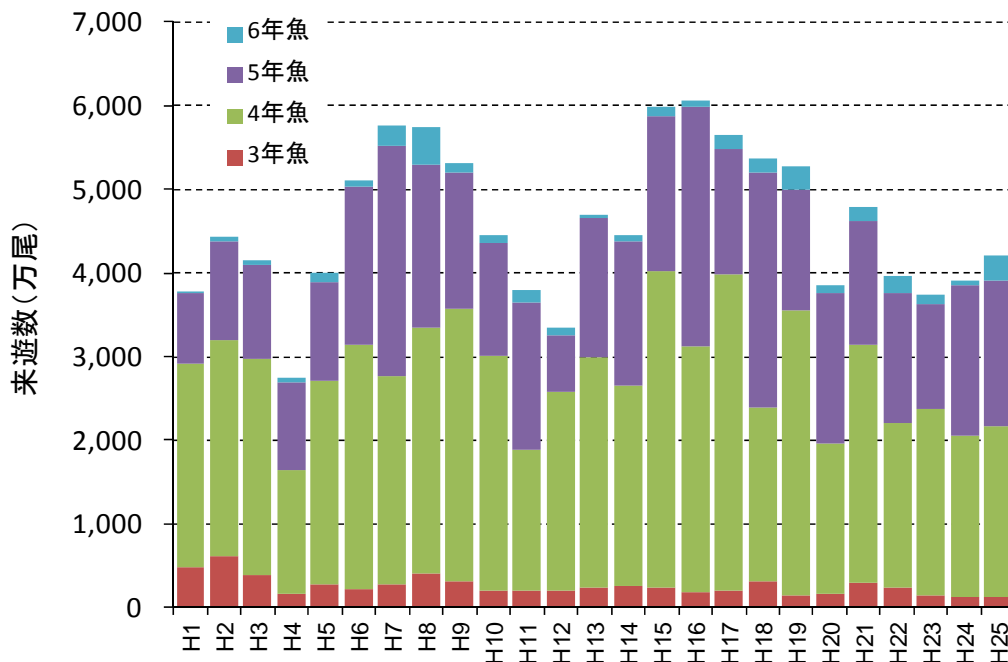


図1 最近の北海道への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

平成 25 年の北海道への秋サケ来遊の特徴

平成 25 年（2013 年）の全道への秋サケ来遊数（沿岸での漁獲数と河川での捕獲数の合計）は 4,212 万尾となり、4 年ぶりに 4,000 万尾を超えました。

年齢別に見ると、4 年魚が最も多く 2,041 万尾（48.5%）、次いで 5 年魚が 1,750 万尾（41.2%）、6 年魚が 290 万尾（6.9%）となっています。秋サケ来遊の主群である 4 年魚と 5 年魚を合計した尾数は前年（平成 24 年）と同程度でしたが、平成 25 年は 6 年魚が多く（平成 8 に次いで 2 番目に多い数）、6 年魚が増えた分だけ前年を上回る来遊数となりました。前年（平成 24 年）は秋サケの魚体サイズが全体的に小ぶりであったため、小型で成熟しなかった魚が 6 年魚として多く回帰したものと考えられます。

※1 沿岸漁獲数：北海道連合海区漁業調整委員会調べ、※2 河川捕獲数：社団法人北海道さけ・ます増殖事業協会調べ、※3 年齢組成データ：さけます・内水面水産試験場、北海道区水産研究所、各管内さけ・ます増殖事業協会の共同調査データ

各海区への来遊状況

昨年の各海区への来遊数をみると、オホーツク海区は高い水準を維持しています。根室海区はほぼ横ばい、えりも以東およびえりも以西海区は4年魚が多く回帰したため前年よりも増加しました。日本海区は4年魚の回帰が非常に少なく、前年よりも減少しました。

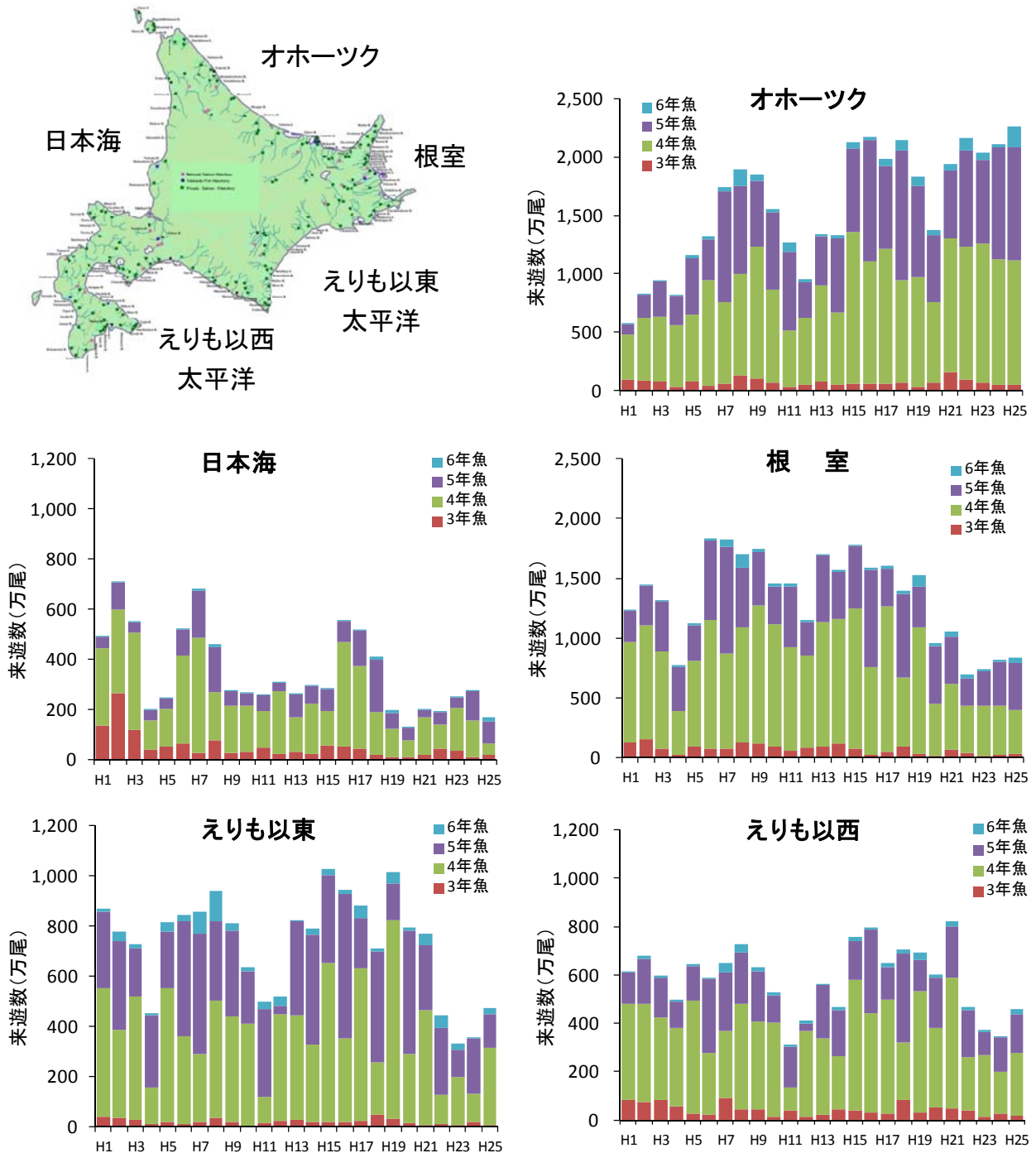
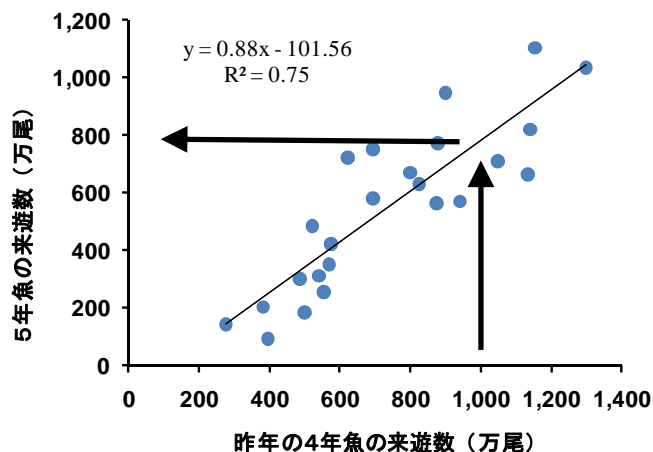


図2 最近の各海区への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

今年(平成26年)の来遊予測

昨年までと同様にシブリング法という手法を基本として今年の来遊数を予測しました。この手法では、昨年の3年魚の来遊数から今年の4年魚の来遊数を、昨年の4年魚の来遊数から今年の5年魚の来遊数を推定します。昨年の3年魚が多いと今年の4年魚が多く、昨年の4年魚が多いと今年の5年魚が多いと予測されます。今年最近15年の年齢別来遊数のデータを使って予測をしています。



今年の予測値

平成26年(2014年)の全道への秋サケ来遊数は4,059万6千尾と予測されます。地区別の予測値は下表のようになっています。

海 区	地 区	平成26年 予測値(千尾)	平成25年 来遊数(千尾)	前年比(%)
オホーツク	東 部	12,297	12,933	95.1
	中 部	4,980	6,211	80.2
	西 部	3,245	3,525	92.1
	小 計	20,521	22,669	90.5
根 室	北 部	7,779	6,267	124.1
	南 部	1,752	2,121	82.6
	小 計	9,530	8,387	113.6
えりも以東	東 部	2,051	1,920	106.8
	西 部	2,900	2,836	102.3
	小 計	4,951	4,756	104.1
えりも以西	日 高	1,520	1,776	85.6
	胆 振	1,103	1,198	92.0
	噴火湾	728	858	84.9
	道 南	734	765	95.9
	小 計	4,085	4,597	88.9
日 本 海	北 部	905	817	110.7
	中 部	397	605	65.6
	南 部	207	293	70.7
	小 計	1,508	1,714	88.0
北 海 道	総 計	40,596	42,123	96.4